

令和4年9月25日

## 私の人生は流動的？ 八戸の支部大会参加

<JH8CBH 佐々木 朗>

### 1 私の人生は流動的？

八戸の支部大会に行くことなど一週間前は全く考えていなかった。八戸で支部大会があることすら、知らなかった。先週の月曜日 19 日に槻木沢さんと2m で交信して、今度の日曜日 25 日、つまり今日、八戸で支部大会があることを知った。私としては「八戸＝大向さんがいる街」である。大向さんは、昨年度実施した北東北・北海道の縄文遺跡群世界遺産登録特別局の開設に当たって、一緒に仕事をさせていただいた、というか、多大なるご指導を受けた私の師である。何度も何度も電話で連絡を取り、メール連絡も頻繁にとり、北東北と青森県で、それぞれ 8J8JOMON、8J7JOMONを同時開設し、アワードの発行などの仕事もさせていただいた仲である。でも、一度もお会いしたことがない。ということで、槻木沢さんとの交信後、すぐに、「大向さん、八戸の支部大会行かれますか。」とメールを打った。すぐにお返事をいただき、水曜日には、本日の支部大会に行くことを決めた。

となると、行動は早い。私のこれまで作成した縄文の資料をお渡ししよう、ということで過去フォルダからファイルを集めた。「ん！」全体が見えるものがない。ということで、今までのメモなどをひっくり返して、最初から最後までを一気に綴った。昨年の一年間のことを思うと湯水のように、思

い出が蘇ってくる。そして、縄文特別局を通して、多くの方にお世話になり、また、多くの事を私自身学んだことに改めて気づいた。

全てをファイルにして、大向さんに渡すべく準備をした。

### 2 JRに乗るのは嬉しい



鉄ちゃんというほどではないが、JRに乗るのは好きである。乗れば一番前の前が見るところが定位置。今日は朝一番の列車なので、遮光されたまま。「開けてほしい。」とまで言う勇気なし。そのまま、新函館へ。新幹線は、すぐの接続。座席指定なしなので、どこでも座れる。青森まで私一人の貸し切り状態だった。



一時間半で八戸。八戸クラブの杉山さん(7M3SKC)が迎えに来てくれた。何と放送中継車。話には聞いていたが、駅

前に停まっており、迷うことなう、無事アイボール。杉山さんは、電信の天才みたい。覚えて一週間でCQをスパルタ教育を受けたようだ。教える方もすごいが、教わる方もすごい。

### 3 会場に着いて

会場の開場は10時頃。着いたのは、8時半ちょっと過ぎだったので、まったくタイム。大向さんもすぐに駐車場に来てくださり、劇的なご対面であった。やはり、髪の毛の本数は比較にならないほど大敗ではあったが、そんなどうでもいいことを話題にも出さず、縄文のことで盛り上がった。



会場の隣では、ジャンク、中古無線機、地元の物産、アイコムブース、JARL入会金免除のブースなどがあり、たくさんの方が足を運んでいた。



### 4 支部大会

支部大会が始まった。座席の数の2割ぐらいが埋まった。ざっと見て50~60人ぐらいかなって感じ。

八戸市長が駆けつけ下さり、災害時のアマチュア無線の活躍について、ご挨拶の中で強く触れていた。

会計報告、予算、事業報告、事業計画。今まで自分がプランを立てる立場であったことから、他の人が見えないであろう数字や内容についても、いろんな角度からの物が見える。青森県支部のお金の使い方、事業展開についても、なるほどと思いながら、話を聞いた。コンテストの優勝者には図書券が贈られた。支部報が郵送からダウンロードに切り替えられた。来るとやっぱり、あらゆることが勉強になる。



この日の司会は天野よしこさん、地元でタヒチダンスのインストラクターをされているそうです。司会を途中でバトンタッチしたかと思うと、見事な真っ赤な衣装に着替えてダンスを披露した。ちょっと難しい話の後に華やかなダンスがあっただけで、楽しかった。

いただいた支部報は、各クラブの活動状況が細かく載っている力作だった。



大向さんにいただいた、縄文のまとめ

も感動的だった。

お昼は近くのホテルで、大向さん、そして、会場まで送って下さった杉山さんと共に会食。縄文のこと、無線のこと、支部大会運営のあり方など、交流を深めた。あっという間に午後の開始時刻になってしまい(ちょっと遅刻してしまいましたが)、会場に戻った。

## 5 南極越冬隊員のお話は感動的

南極に越冬隊員として二度行かれた氏家宏之さんの講演を聞いた。何もかもすごい。

一回の出張は1年4カ月。家族がどうなっても、自分がどうなっても、帰ることができない。そんな誓約書のもと、出発するそうだ。チームは30名ほど。女性隊員も5名ほどいたそうだ。何があっても一緒に生活しなければならない仲間だ。最初の1カ月ぐらいは昭和基地の夏宿舎でみっちり集団生活を仕込まれるようだ。その間、研究者も、医者も、料理人もみんな、基地の補修や土木作業などを経験するそうだ。昭和基地は、管理棟を中心に研究棟や宿泊棟、などいくつかのユニットごとに建物が、分かれている。

基地の発電機は2台、一週間ごとに交代で使い、もう片方をメンテナンスするそうだ。実にうまく切り替えているようで、瞬間停電するかどうかという位の切り替えだそうだ。

基地の無線機はHFのSSB、CWで2KW、VHFのデータ、FMで50W、UHFのFM50Wだそうだ。UHFはレピータがあって、安定した通信ができるそうだ。全ての隊員にUHFのハンディが渡され、

各自管理となるということだ。

通信担当の氏家さんは、通信室にいますが、隊員の基地からの出入りなどの報告も管理するという仕事もあり、結構ハードなようだった。「今でもCW？」と思ったが、写っていた無線室にはちゃんと縦ぶれ電鍵があった。通信施設の整備も氏家さんの仕事。真冬だと除雪車でよくケーブルを切られるそうだ。「またか」と言いながら、修理に出るそうだ。アンテナの管理も結構たいへんそうである。クレーンがあるとは言え簡単にはいかないようだ。それでも強力なブリザードが来ると、あちらこちらやられるということだ。

インターネット回線もアンテナドームが作られ、インマルサットが使われるようになってから、だいぶ使い勝手が良くなったとのことである。各自のスマホをWIFI接続できる環境だそうだ。それまでは、3メガほどで、「動画禁止」「アップデート禁止」など条件が厳しかったようだ。

テレビはもちろん、衛星放送も含めて映らない。テレビのある部屋にはDVDがところ狭し、と並んでいた。バーもあるそうである。管理等から宿泊棟にかけてはラーメン通りと呼ばれるそうだ。ありとあらゆるカップラーメンが並んで、ご自由にどうぞ、ということだ。心に残っているのが、一番奥にある「デブ倉庫」ここには、お菓子など甘いものがいっぱいある。こちらも取り放題。でも名称の通り、何局の一年で20キロ成長した人もいるそうだ。食事もお酒も、カップ麺も、お菓子も一切支払いはなし。あらかじめ各自いただいた嘱託料を全てプールして管理しているそうだ。ただし、たばこだけは別だそうだ。

極夜(一日中太陽が上がらない季節)にはミッドウィンター祭りが行われ、この日のために持ってきた正装で、ディナーを食べるそうだ。単調な日々の中にこのような刺激も効果的だそうだ。

8J8RLであるが、クラブ活動の一つと指定の位置づけだそうだ。免許持ちの隊員は結構いるが、みんながみんな運用するわけではなく、やはりアクティブな方の運用にかかっているそうだ。最近FT-8が大部分を占めているそうだ。初めて分かったことだが、南極はどこの国にも属さないということであるので、固定局にはならないということだ。移動局、つまり空中線電力は50Wである。そして、アンテナはいつも日本向け。ローテーターは吹き飛ばすので、固定しているということである。

氏家さんが言うには、南極に行けば何があっても戻れない。でも今までしたことのない生活をし、動物とも出会い、オーロラも、そして満点の星空も見て、心が洗われる思いをしたということである。また、南極観測は、これからの地球環境などを考えていく上で貴重な研究であることを伝えてくれた。

話に吸い込まれた。とってもいい講演だった。

## 6 高尾会長のお話

一時間半の話を30分でということで、中身の凝縮された話であった。ハムフェアには二日間で3万5千人の来場者だそうだ。職員にはホスピタリマインドの研修を行い、よりよい対応ができるようにしている。確かに、私もJARLの職員さんと

はお話をする機会も多かったがみんな親切であった。JARL社員総会でしか会えそうもなかったのも、日頃のお礼を伝えて来た。

あと3年と数カ月でJARLは100周年を迎える。会員はやっとプラスに転じた。しかし平均年齢は限りなく65歳に近い64歳だそうだ。50代は若手。がんばってほしい。また、若者のイベントを打ち、成功させた。22歳以下の無料入会など、積極的勧誘を計っている。また、洪5時を始めメディアへのPRも行っている。予算については、内部留保が8億円ほどあり、現在の切り崩しは2千万から1千万。財政は大丈夫であるとのこと。

アマチュア無線の無資格運用、社会貢献などを進めていきたい。

QSLは、現在遅れているが、取り戻しつつある、4~5か月で届くようにしていきたい。現在はFT-8の紙カードが多いとのこと。

電鍵のガチャガチャが近々発売されるということ。500円。

学会で、災害時にアマチュア無線が役にたったということを知った。災害時に対する備えをよろしくお願ひしたい。普段からの心構え、準備が大切である。

## 7 記念写真

みんなで舞台前に集合して、写真を撮った。後程ホームページからダウンロードということである。こういうのもありかなと思った。時代だなあと感じた。

## 8 抽選

ラッキーなことに、というか人が少ないと



どうか、抽選カードが3回使われた。私は、マグカップと、ケータイ電話用の外部電池が当たった。部外者で申し訳なかったが、JARL会員ということで胸を張ってもらって来た。

## 9 帰路

無事抽選も終わり、支部大会は終わった。大向さんに、徒歩で本八戸駅まで送ってもらった。ホームに上がるが、まだ、1時間近くの待ち時間。CQを出したら、朝

お世話になった杉村さんが声をかけて下さった。ポータブル7のログも残った。帰りの新幹線はもちろん原稿書き。仕事は早く、時間は有効に、である。



7エリアの方は、ほとんどの方が2mでつながっているし、結構、私に声をかけて下さる方もいた。これからも無理のない範囲で支部間交流をしていくことは、意義あることだなあと感じた。

今日もいい一日でした。